

特集

海という字は、さんずい(涙)に母…。
子育ては一生続く。その間に、母は幾度の涙を流すだろう。
悲しい涙、辛い涙、うれしい涙、感動の涙…。
どの涙も、母親たちの心に広がっていく。
蒼い海、深い海、広い海…。海は、偉大なる母、そのものである。

を感じる



イラスト/石坂 香

母を感じる…。1年前、「お母さん大学」がスタートしたとき、「お母さんを感じる場」という言葉に、戸惑いを見せた多くの母親たち。なぜなら、お母さん大学はカタチのない大学。大学というのに、先生もいない、講座もない、校舎もない。ただ「お母さんはスゴイ!」と、お母さん大学のテキストでもある「お母さん業界新聞」に書いてあるだけ…。

お母さん大学は、一人ひとりのお母さんの心の中にあり、毎日の生活すべてが学びだ。と同時に、自分に向き合うということ。それがどれほど難しく、どれほど大きなテーマであり、学びであるか。子どもが日々の生活の中で成長していくように、お母さんも日々の子育ての中で、だんだん母親になっていく。お母さん大学にある唯一のアクティビティ。それは、日々の生活を発信すること。発信ペンを持つことだが、ウェブ上(ブログ&SNS夢ひろば)で記事を書いていく中で、たくさんの気づきと学びがある。さまざまな人や価値観との出会いと感動が、お母さんの心を大きくする。

子どもが幼稚園に通い始めたとき。「のんびりライフを満喫できる〜」と思っていたのに、静まりかえった部屋の中で、なんだかさびしくて、思わずポロポロと涙が出てきました。毎日毎日息子と2人、公園、スーパー、図書館、ふれあい広場を自転車でハシゴしていた日々が、無性に恋しく思えてきました。(中西朋美)

私 ってお母さんだなぁと感じるのは、仕事をしているとき、一人になったとき。子どもにとって一番身近なお手本はお母さん。大人になることを楽しみにしてほしい。だから仕事も一生懸命にいきたい。と伝えたい。お母さんが諦めの人生だったら恥ずかしい。お母さんががんばられるのは、あなたのおかげ。ありがとう。(長谷川登世子)

吐 の底から、全身全霊をかけて叱るときに「お母さんを感じます。命をかけて産み、命と引き換えにしてもいいほど愛しているからこそ、本気で叱ることが出来ます。どうでもよかつたら、叱ることなんてできません。なぜなら、吐の底から叱るには、ものすごいエネルギーが要るからです。そして、叱ったあと、本人が反省したら、両手を広げて迎え入れる。これも、お母さんならではのです。(川口由起)

息 子を産んでからというもの、いえ、お腹に居るときからもずっと、常に「母であること」を感じています。「特になど」というわけではなく、いつもいつでも、息子の顔を見るたびに「ああ、この子は私の子」と感じます。感じないときはありません。(高柳加容子)

長 女を出産した日の授乳で赤ちゃんを出産したお母さんは「眠たいの?」「どうしたん?」「おっぱいおいしい?」と声に出して話かけていました。私はといえば、心の中で話しかけることしかできませんでした。声に出せない、表現ができなかつたんです。それがいつのまにか、自然に話しかけられるように! 2人目(次女)ともなれば、もう「お母さん」になりきっている。「どうしたん?」「母ちゃんおえよ」と、親ほかといわれるぐらいに話しかけて、笑ってほっぺにすりすりしてチュチュもしまくり! そんな自分に、お母さんなんだなぁと感じます。(塩見美栄子)

照 れもなく愛といえちゃ感じます。子どもが産まれるまで、「愛」とか「愛しい」とかよくわからなかつたし、口にしたことがありませんでした。最近では、小さな親切(心遣い)も「愛」だと思え、やさしい眼差しだけでも「愛」だと思える。バスや電車の運転手さんや、保育士さんの通常の仕事の中にも「愛」を感じたり、花や木々の自然のやさしさにも「愛」を感じる。子どもを持つて新しい価値観を持つたことを実感する「愛」という言葉を、照れもなく口にかけている自分に、お母さんを感じます。(杉本真美)

雨の日のお散歩
久しぶりに仕事も予定もなく、体調もいい日曜日。しかし、朝から雨ざあざあ。それでも普段通り6時にお目覚めの小怪獣くん(息子)。「おなかですいた」「喉が渴いた」「遊びたい」と、朝から相変わらずのテンションの高さ! 朝食後は、いつも通り「外へ行きたい」「電車見に行きたい」「雨だよ、土砂降りだよ」とベランダから外を見せるが、「それがどうした?」と言わんばかりの「お散歩」コール。
はい。もうどうにもならず、お散歩へ。しかも、合羽と長靴にますますテンションは上がる! 特に行くアてもないので、気が済むまで電車を眺め、階段や坂道を上り下り&寄り道し放題。
すぐ帰るはずが、結局3時間近い散歩となりました。強風でフードが飛ばしても気にせず、「あひゃ、ひゃ〜」と楽しそう。びちゃびちゃの地べたに座って水をはねさせたり、水たまりの中で足踏みしたり、雨樋から流れる水をバシャバシャしたり…。あとは雨でも晴れでも同じ。砂利を拾い、電車を見て叫び、道行く人に「バイバイ」と手を振り…。
こんなに長時間なら、私も合羽と長靴でくればよかった…。でも考えたら、買い物をして、図書館に行って、写真屋さんに寄って…と、いつも用事を優先している私。今日は、思いっきり息子優先の雨の日のお散歩! 私も楽しかったな。また行こうね!(山中菜詩)



お散歩の様子